序

私共の所報も漸く号数が２桁になる時が参りました。所報第１号が出たのが昭和37年４月ですから，６年半を経過した事になります.

こころみに第１号の目次と本号の目次を比べてみますと，似た様な表題が並んでいるのに驚かされます.

石の上に３年どころではなく，同じ問題に６年，私共の当面する問題はそんなに難解なのでしょうか．そしてこんなに解らない事があるのに，それをそのままにしてすすめている現場の工事は果して健全なのでしょうか.

世の中の要求がある以上，私共はすべてが解決するまで手をつかねて待っているわけには参りません。解らない所は解らないままに，安全率という厚い衣を着せて進めているのが私共の現場の工事なのです．私共の研究面では，解らない部分をいくらかずつでも解明して，この厚い衣をいくらかでも薄くし，余分な工費をかけない様にと努めているのです.

似た様な表題でも，内容をご覧いただけば，その取扱い方にも，またその咀嚼の仕方にも６年間の成長を感じとっていただけると思います.

第10号の発行を機会に私共もここに充分な反省をしており，さらに将来への進歩へと努力いたす覚悟です。読者の皆様の相変らざるご鞭達をお願いする次第です.

１９６７年10月

清水建設研究所　所長

大　築　志　夫